

# 第3章 現状分析



1 少子化の進行

2 少子化の要因

3 子育てに対する  
負担感の増大

4 保育の状況

5 子ども・子育てを  
めぐる問題の動向



# 第3章 現状分析

## 1 少子化の進行

### (1) 年齢別(3区分)人口の推移(鎌倉市)

鎌倉市の人口は昭和64年以降減少が続きましたが、平成11年以降増加に転じ、平成17年に平成7年以来の17万人を超えました。

0歳から14歳までの年少人口は、平成4年に老年人口(65歳以上)を下回りましたが、近年、子育て世代の転入などの影響により、年少人口も若干増加しています。

図1 年齢別(3区分)の人口推移(折れ線グラフ)

(人)

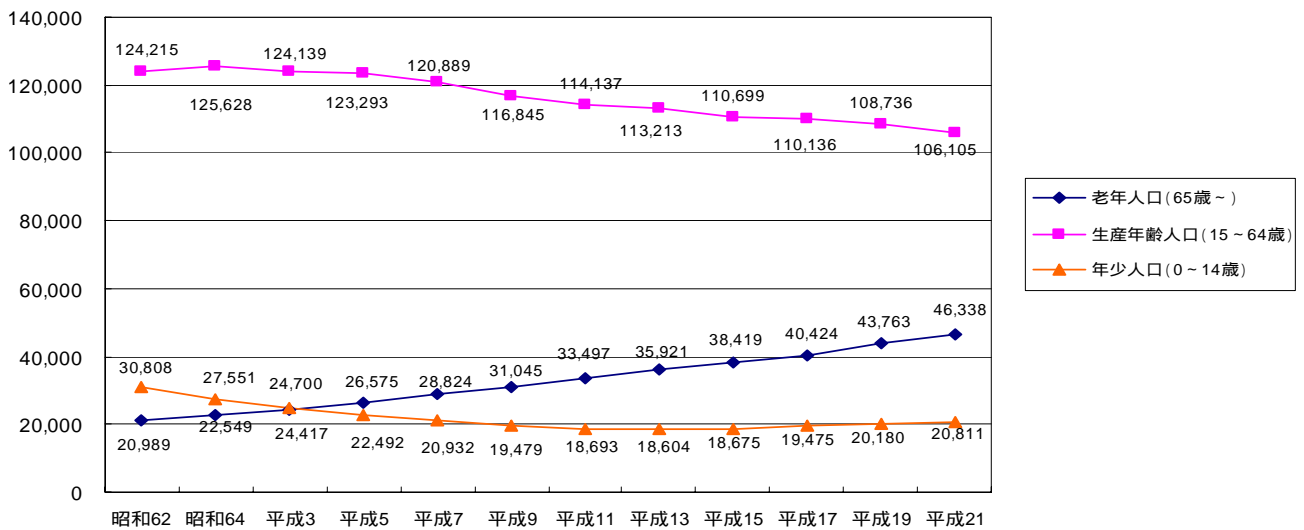
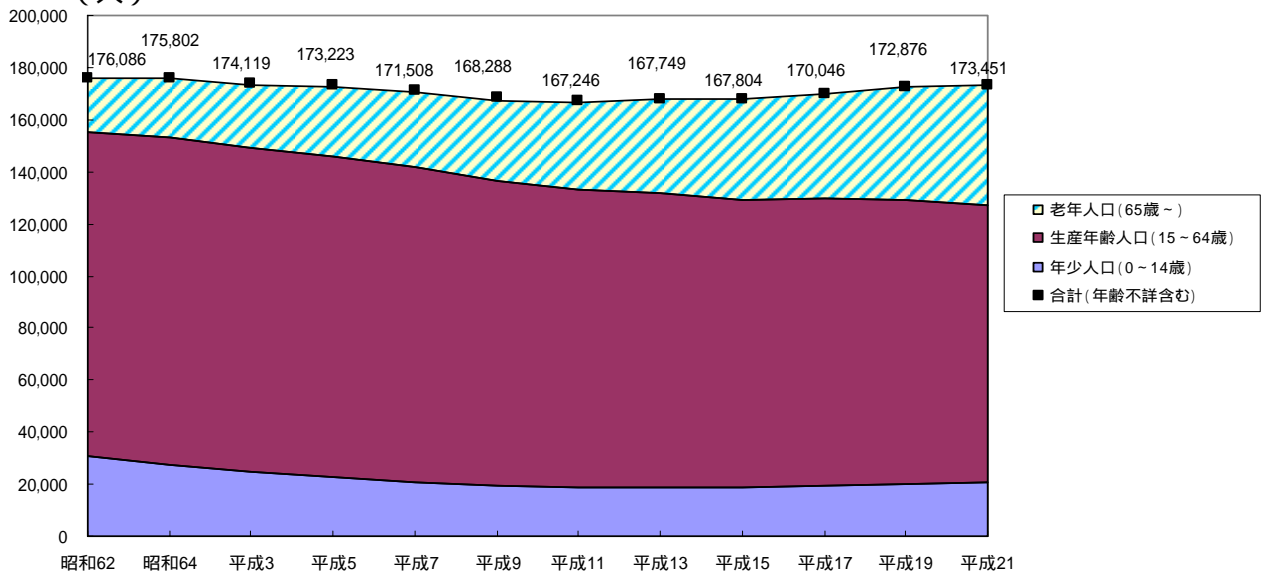


図2 年齢別(3区分)の人口推移(面グラフ)

(人)



資料: 神奈川県年齢別人口統計調査結果  
各年1月1日現在

(2) 地域別児童人口(0~14歳)の推移(鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄地域)

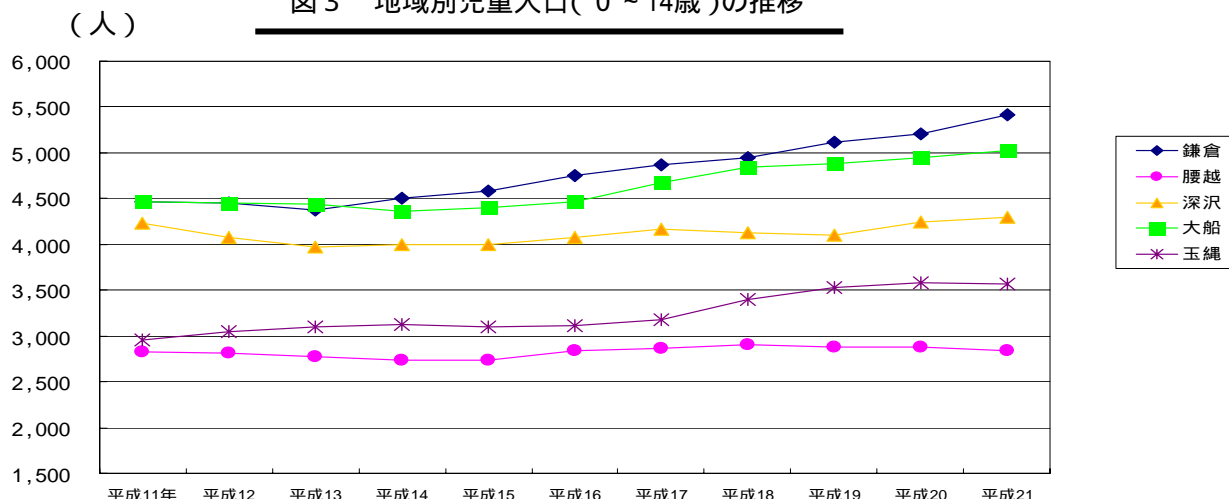
児童人口は近年増加しており、なかでも鎌倉地域の伸びが顕著で、平成21年は前年比104.0%の伸び率となっています。

資料：住民基本台帳  
各年4月1日現在

表1 地域別児童人口(0~14歳)の推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
鎌倉	4,466	4,456	4,378	4,498	4,588	4,750	4,869	4,950	5,114	5,208	5,415
腰越	2,833	2,812	2,781	2,737	2,741	2,846	2,864	2,906	2,884	2,877	2,837
深沢	4,228	4,080	3,971	4,002	3,999	4,070	4,169	4,125	4,095	4,241	4,296
大船	4,470	4,449	4,445	4,361	4,402	4,460	4,671	4,845	4,877	4,945	5,025
玉縄	2,957	3,048	3,095	3,126	3,099	3,118	3,175	3,400	3,532	3,587	3,569
合計	18,954	18,845	18,670	18,724	18,829	19,244	19,748	20,226	20,502	20,858	21,142

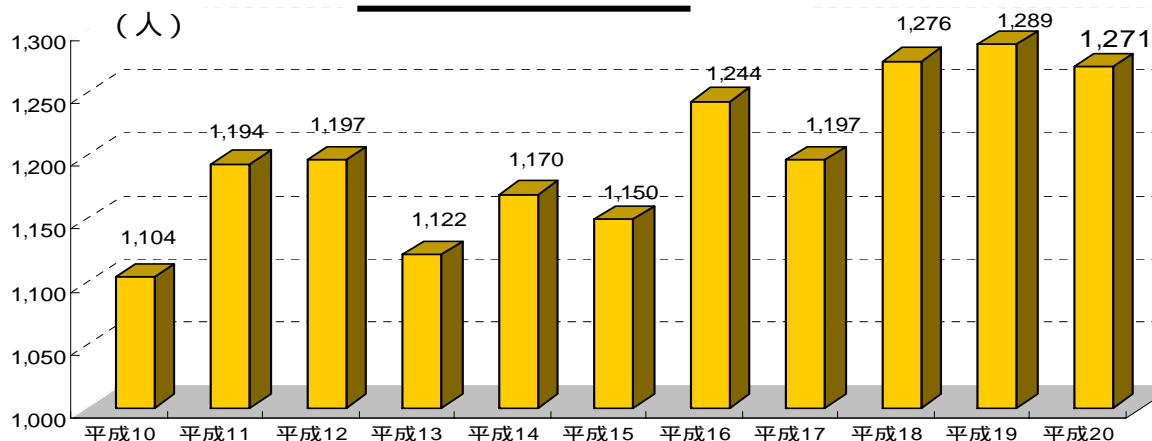
図3 地域別児童人口(0~14歳)の推移



(3) 出生数の推移(鎌倉市)

鎌倉市の出生数は、平成18年から2年連続で増加していましたが、平成20年で減少しました。

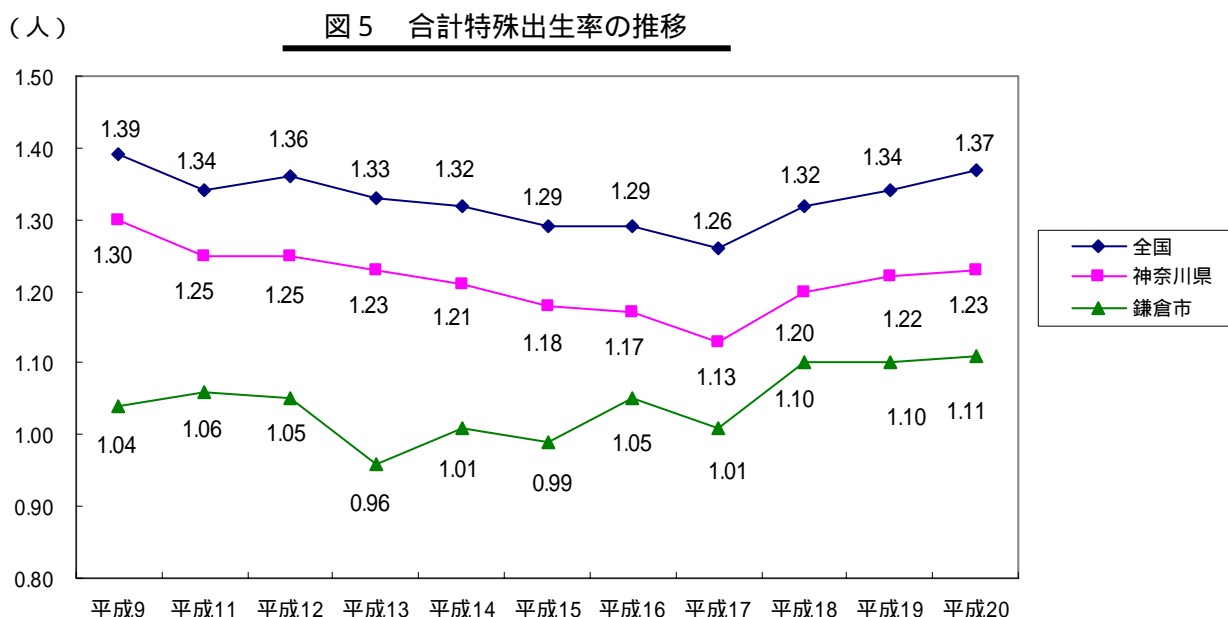
図4 出生数の推移



資料：神奈川県衛生統計年報

(4) 合計特殊出生率の推移(全国・県・鎌倉市)

鎌倉市の合計特殊出生率は、全国や県を下回って推移していますが、鎌倉市ではここ数年上昇傾向にあり、平成20年に1.11まで回復しました。

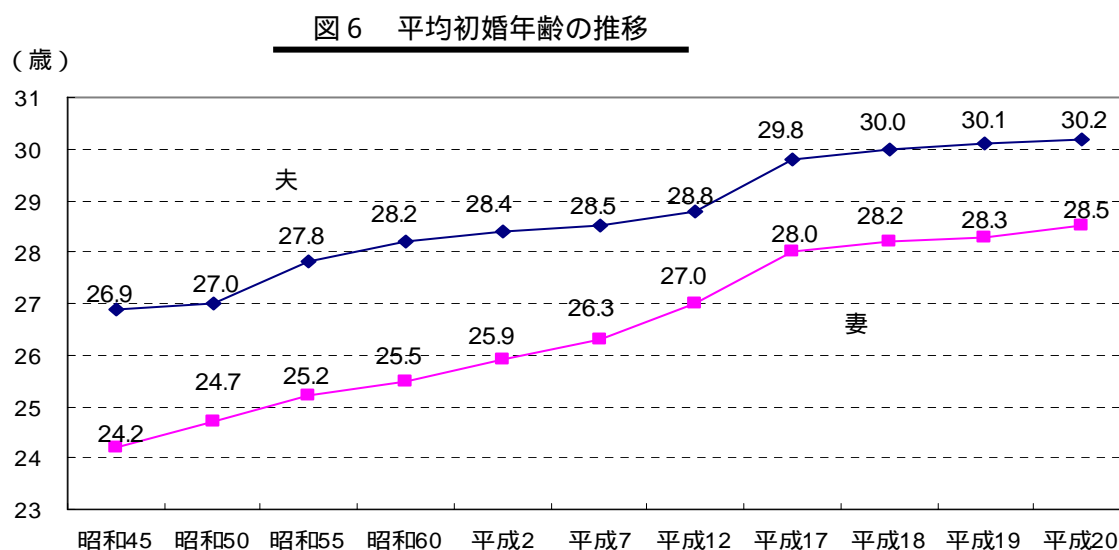


資料：(全国)厚生労働省「人口動態統計」  
(神奈川県・鎌倉市)神奈川県衛生統計年報

2 少子化の要因

(1) 晩婚化(平均初婚年齢の推移)(全国)

平均初婚年齢は、平成20年で、夫が30.2歳、妻が28.5歳となり、晩婚化が一層進んでいます。

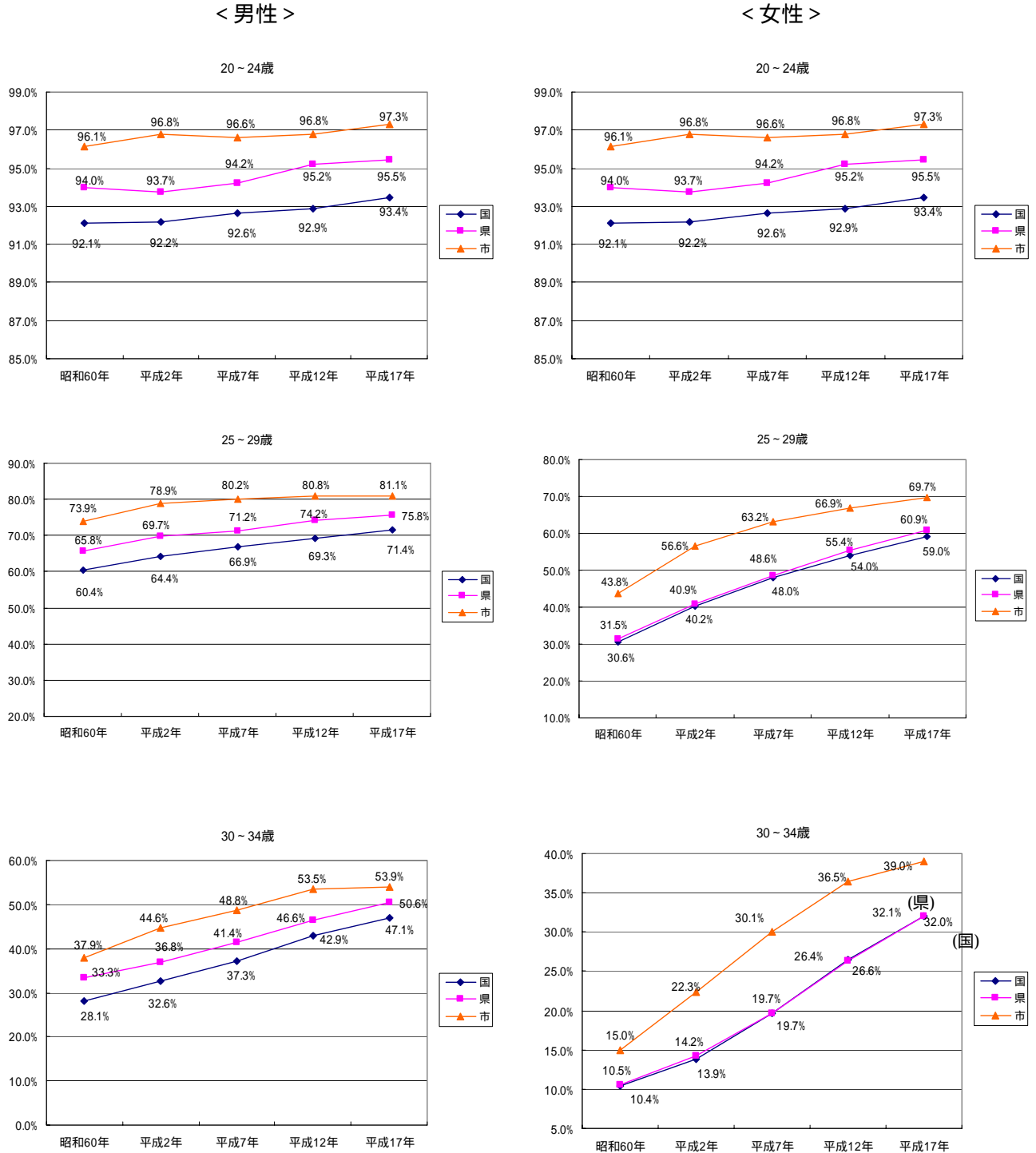


昭和40年は、結婚式を挙げた時の年齢、それ以降は結婚式を挙げた時または同居を始めた時の年齢。  
資料：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 未婚化(未婚率の推移)(全国・県・鎌倉市)

年齢別の未婚率をみると、男女とも上昇傾向にあり、晩婚化が進行しています。特に女性の30～34歳で、顕著に未婚率の上昇がみられます。また、鎌倉市の未婚率は全国、県を大きく上回っています。

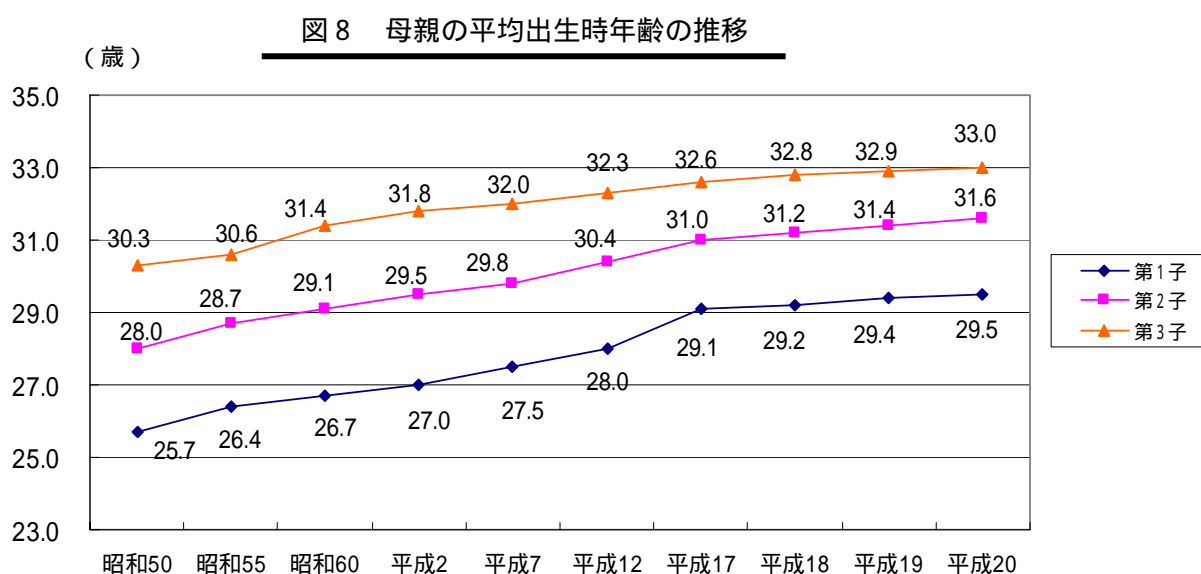
図7 未婚率の推移



〔資料：国勢調査〕

### (3) 晩産化(母親の平均出生時年齢の推移)(全国)

晩婚化の傾向に伴い、出生したときの母親の年齢も遅くなる晩産化が同時に進んでいます。昭和50年には、第1子出生時の母親の平均年齢は25.7歳でしたが、平成20年には29.5歳と3.8歳上昇し、その結果、第2子、第3子出生時の平均年齢も上昇しています。高年齢になると出産を控える傾向にあるため、晩産化は少子化の一因とされています。



〔資料：厚生労働省「人口動態統計」〕

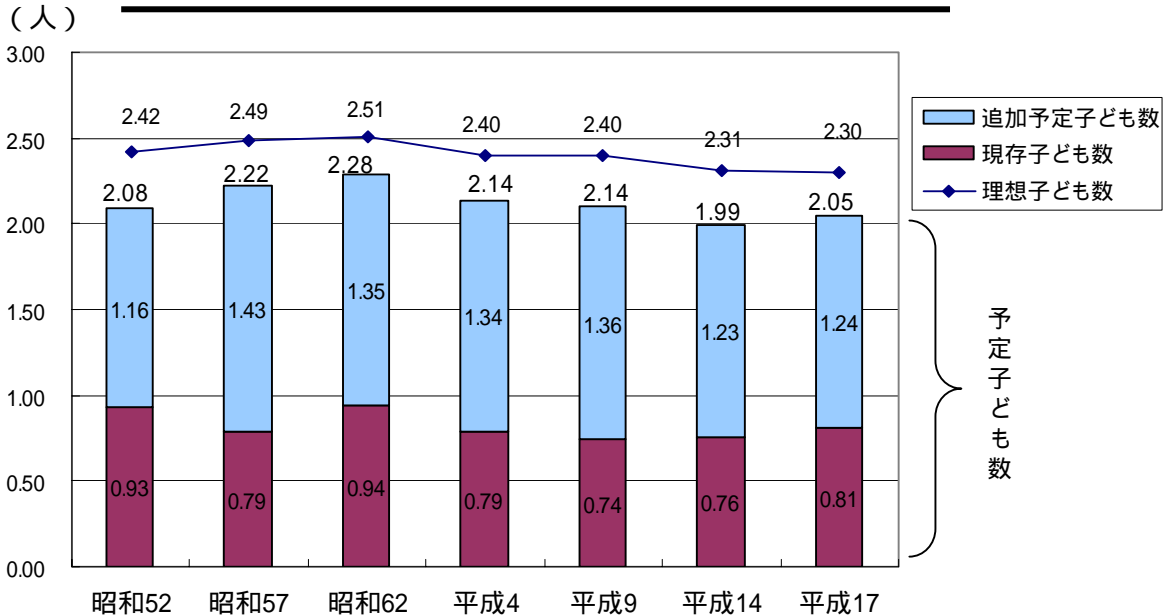
### 3 子育てに対する負担感の増大

#### (1) 理想子ども数と予定子ども数（全国・鎌倉市）

理想とする子どもの数に対し、実際に予定している子どもの数は常に下回っており、夫婦の出産に関する希望がかなえられていない現状がわかります。

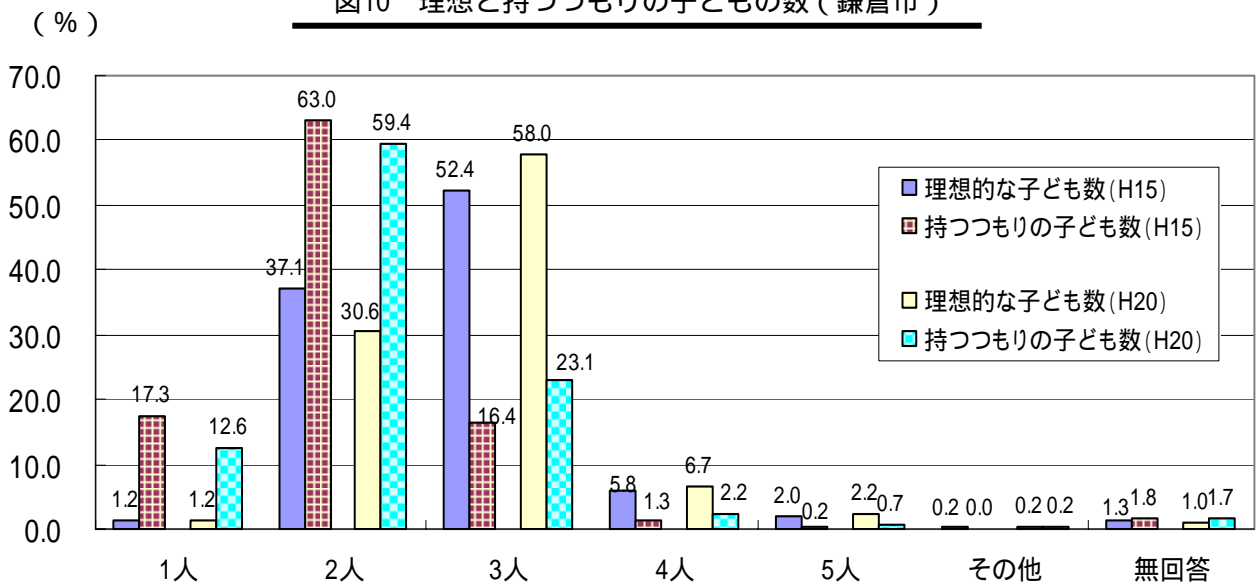
しかし、鎌倉市の平成 15 年度と平成 20 年度の就学前児童を持つ保護者への調査を比較すると、理想的な子どもの数も持つつもりの子どもの数も「3人以上」と答える人の割合が増加し、出産に関する希望や予定が上向いてきています。

図9 平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移（全国）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査（夫婦調査）」  
注：対象は初婚どうしの夫婦

図10 理想と持つつもりの子どもの数（鎌倉市）



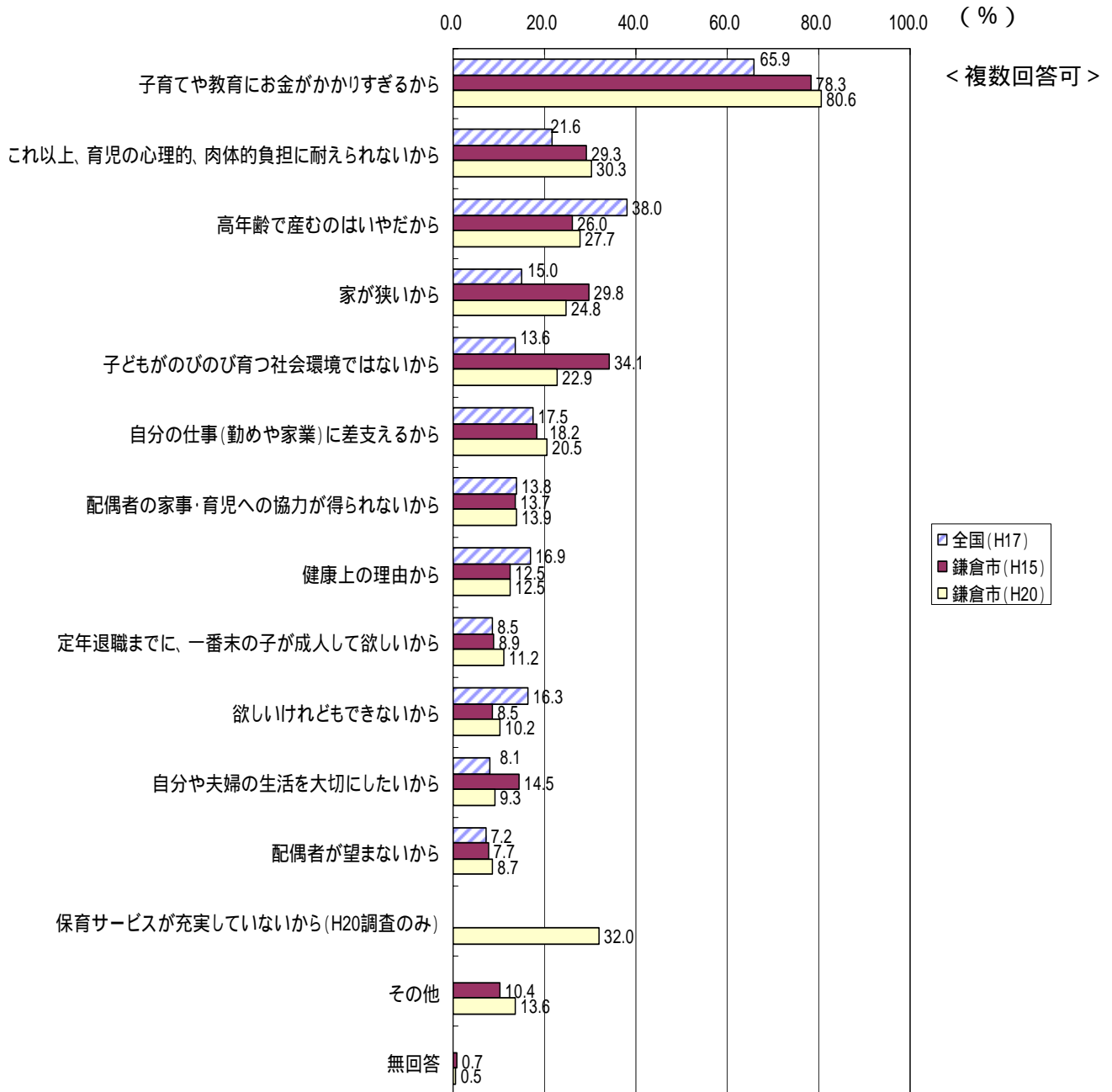
資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成 15 年度）  
「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成 20 年度）



(2) 子どもが理想より少ない理由(全国・鎌倉市)

持つつもりの子どもの数が理想の子どもの数より少ない人に、その理由を聞くと「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が全国、鎌倉市ともに最も多い回答となっており、特に平成20年度の鎌倉市の調査では8割超の人が経済的負担を理由に挙げています。

図11 理想の数の子どもを持つとしない理由

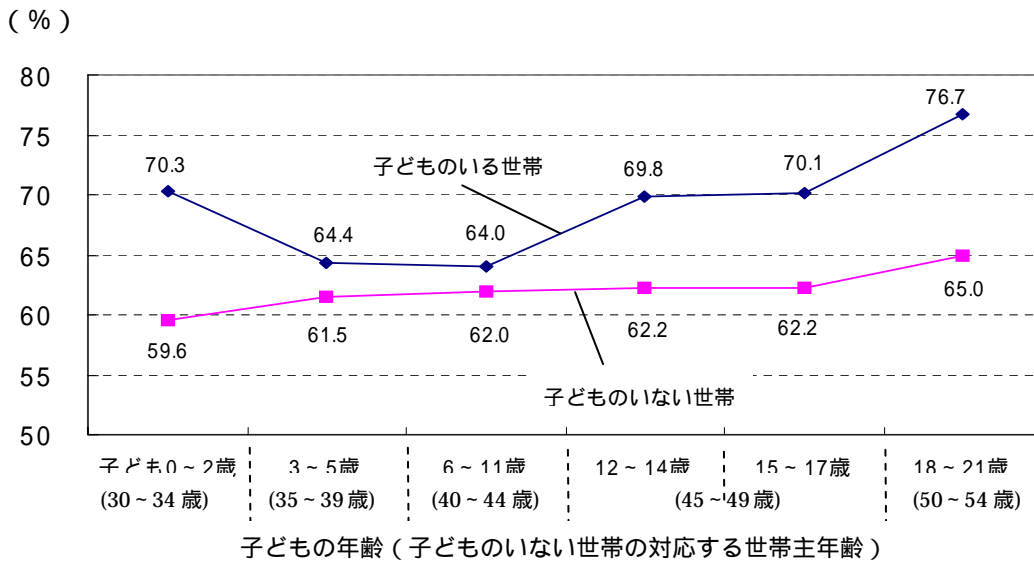


資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童)」(平成15年度)  
 「次代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童)」(平成20年度)  
 国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査」(平成17年)  
 調査客体...全国の25歳以上50歳未満の妻で予定子ども数が理想子ども数より少ない者に対する調査

### (3) 子どものいる世帯と子どものいない世帯の平均消費性向

0～2歳、12～21歳の子どもを一人持つ世帯の消費支出額は、子どものいない世帯を大きく上回っています。

図12 年齢層別に見た子どものいる世帯といない世帯の平均消費性向

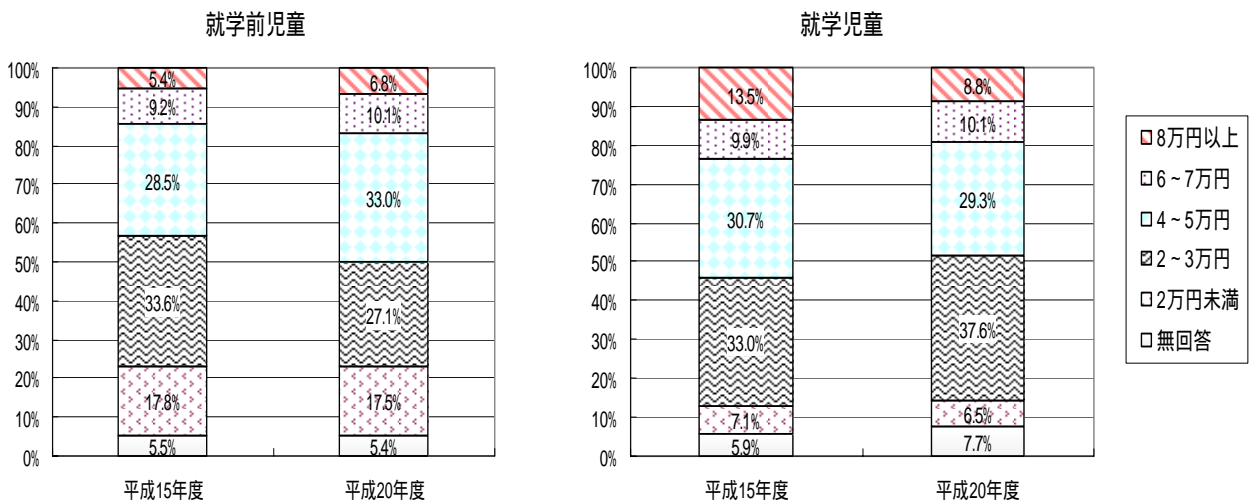


1. 「子どものいる世帯」は、勤労者世帯で夫婦と21歳以下の未婚の子どもが一人おり、世帯主が夫で仕送り金を支出していない世帯より、子どもの年齢別に分類。
  2. 「子どものいない世帯」は、勤労者世帯の夫婦のみで世帯主が夫で仕送り金をしておらず、子どものいる世帯主平均年齢と同一年齢層の世帯主の世帯。
  3. 2001年～2003年の年当たり1か月平均値の3か年平均値。
- 資料：総務省「家計調査」により特別集計。  
出典：内閣府「国民生活白書(平成17年版)」

### (4) 子育てに係る1か月の費用

平成15年度と平成20年度の調査を比べると、就学前児童、就学児童どちらも1か月の費用が3万円未満の割合が減り、4万円以上の割合が増えています。

図13 子育てに係る1か月の費用



- 資料：こどもみらい課 「次世代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童)」(平成15年度)  
「次世代育成支援に関するニーズ調査(就学児童)」(平成15年度)  
「次世代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童)」(平成20年度)  
「次世代育成支援に関するニーズ調査(就学児童)」(平成20年度)

## 4 保育の状況

### (1) 保育所の入所児童数等（鎌倉市）

平成22年4月現在、鎌倉市には17（公立7、私立10）の認可保育所（ ）があり、入所児童数は、平成14年度の1,268人から平成22年度には1,787人となっており、増加を続けています。

また、定員に対する入所率についても、同様の傾向を示しており、平成22年度には、108.8%となっています。

認定こども園の認可保育所を含む

表2 認可保育所の定員数・入所児童数等

区分	公立	私立	合計
保育所数	7	10	17
定員数（人）	650	992	1,642
入所児童数（人）	708	1,079	1,787

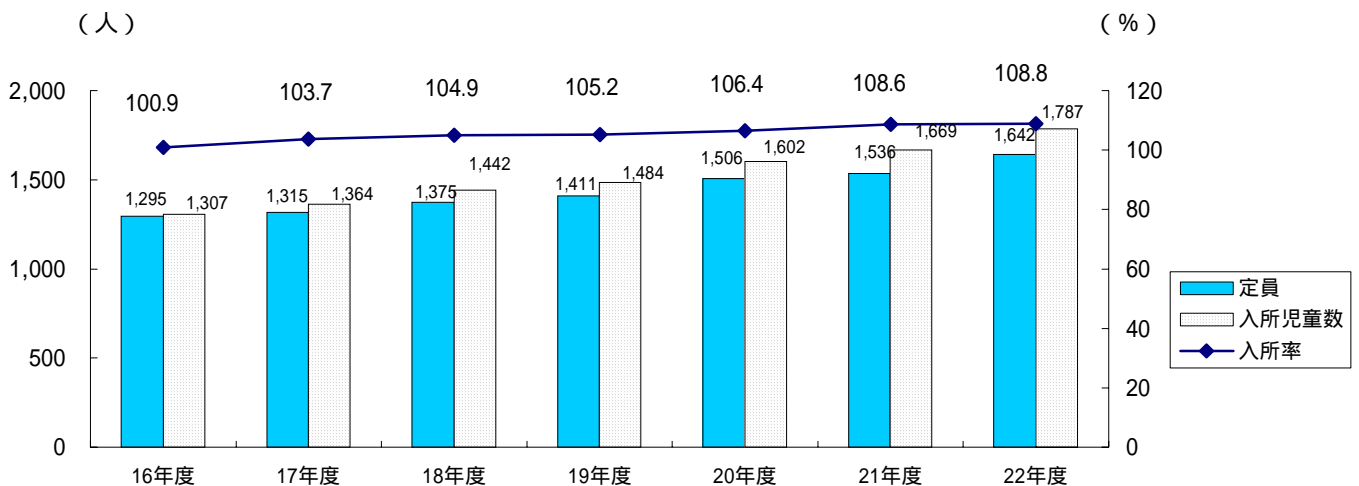
資料：保育課  
平成22年4月1日現在

表3 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移（受託児含）

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
保育所数	15	15	16	16	17	17	17
定員数（人）	1,295	1,315	1,375	1,411	1,506	1,536	1,642
入所児童数（人）	1,307	1,364	1,442	1,484	1,602	1,669	1,787
入所率（%）	100.9	103.7	104.9	105.2	106.4	108.7	108.8
利用率（%）	17.3	17.4	17.9	18.4	19.8	20.6	22.0

入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示し、利用率は、0～5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。  
資料：保育課 各年度4月1日現在

図14 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移



(2) 保育所利用率の推移（鎌倉市）

認可保育所の利用率は、平成14年度の17.7%に比較すると、平成22年度では、22.0%となっており、4.3%増加しています。

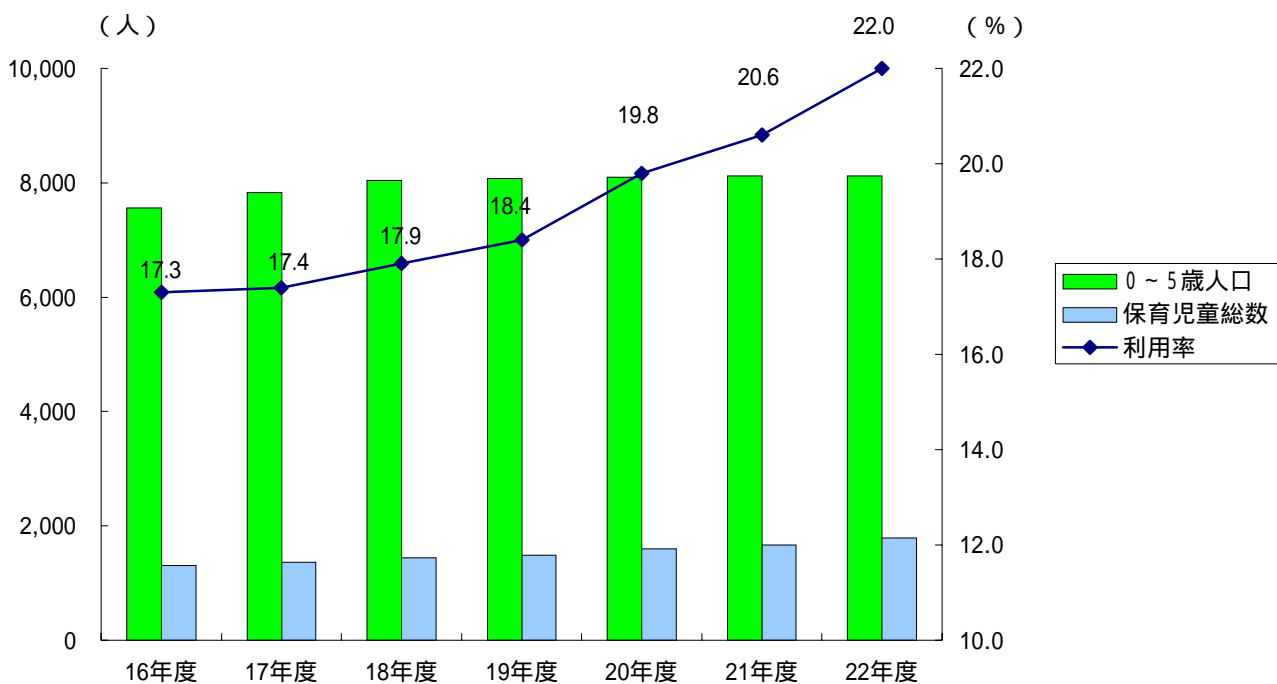
表4 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等（受託児含）

（単位：人、％）

区分	0～5歳人口	保育児童総数	利用率
平成16年度	7,556	1,307	17.3
平成17年度	7,830	1,364	17.4
平成18年度	8,042	1,442	17.9
平成19年度	8,072	1,484	18.4
平成20年度	8,094	1,602	19.8
平成21年度	8,121	1,669	20.6
平成22年度	8,120	1,787	22.0

〔資料：保育課  
各年度4月1日現在〕

図15 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等



(3) 待機児童数の推移（鎌倉市）

保育待機児童数については、平成22年度は57人となり平成21年度の44人を上回りました。また0～2歳の低年齢の待機児童が多くなっています。

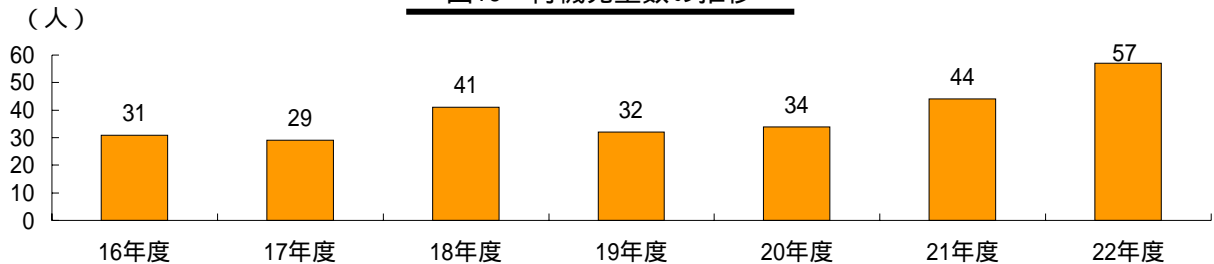
表5 年齢区分別保育待機児童数（市）

（単位：人）

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
0歳	3	4	3	3	3	9	13
1歳	18	9	16	9	15	16	28
2歳	2	11	15	15	15	15	12
3歳	4	3	5	5	1	4	3
4歳以上	3	2	2	0	0	0	1
合計	30	29	41	32	34	44	57

平成15年度以降は、新定義による待機児童数  
資料：保育課 各年度4月1日現在

図16 待機児童数の推移



(4) 幼稚園の児童総数（鎌倉市）

鎌倉市には、幼稚園が23園(私立のみ)あり、鎌倉市在住の在園児童数は2,553人となっています。

表6 幼稚園の定員数・在園児童数等

区分	公立	私立
園数(園)	-	23
定員数(人)	-	3,996
在園児童数(人)	-	2,553

表7 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
園数(園)	23	23	23	23	23	23	23
定員(人)	3,845	3,905	3,955	3,955	3,986	3,996	3,996
在園児童数(人)	2,370	2,510	2,640	2,706	2,671	2,614	2,553
入園率(%)	61.6	64.3	66.8	68.4	67.5	65.4	63.9
利用率(%)	61.3	62.3	62.9	63.5	63.7	62.5	61.5

入園率とは、定員に対する在園児童の割合を、利用率とは、3～5歳人口に占める在園児童数の割合を示す。  
資料：こどもみらい課 各年度5月1日現在

(5) 子どもの家（学童保育）の状況

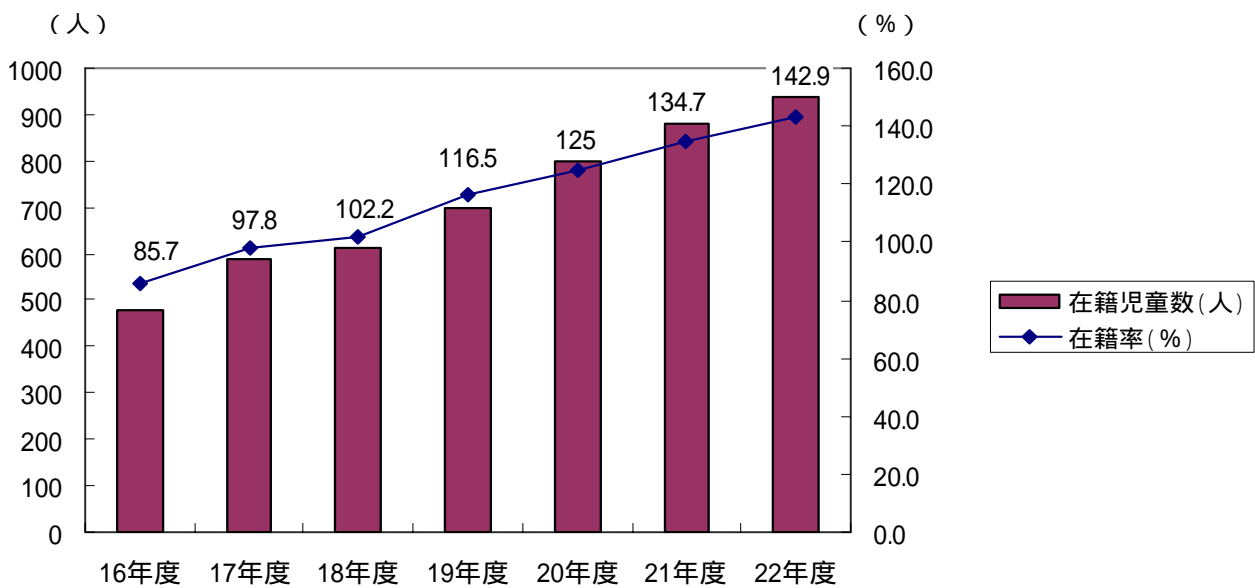
鎌倉市では、平成22年4月1日現在、子どもの家が16か所あり、在籍児童数は、936人となっています。

表8 学童保育の実施箇所・在籍児童数

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
実施箇所(所)	14	15	15	15	16	16	16
定員数(人)	560	600	600	600	640	655	655
在籍児童数(人)	480	587	613	699	800	882	936
在籍率(%)	85.7	97.8	102.2	116.5	125.0	134.7	142.9

資料：青少年課  
各年度4月1日現在

図17 子どもの家（学童保育）の在籍児童数と在籍率の推移



## 5 子ども・子育てをめぐる問題の動向

### (1) 子ども・子育てをめぐる相談件数(こどもと家庭の相談室相談状況)(鎌倉市)

平成17年4月に「こどもと家庭の相談室」を開設し、子どもと家庭の福祉に関する第一義的窓口として相談にあたっています。

表9 依頼者別相談件数

		母親	父親	祖父母	親類	市役所 他部署	関係機 関	隣人・知人	民生委員 児童委員	本人	
17 年度	総件数	110	45	2	6	3	22	9	13	7	3
	比率(%)	40.9	1.8	5.5	2.7	20.0	8.2	11.8	6.4	2.7	
18 年度	総件数	322	95	6	12	2	67	100	23	15	2
	比率(%)	29.5	1.9	3.7	0.6	20.8	31.1	7.1	4.7	0.6	
19 年度	総件数	362	126	12	17	2	67	110	16	11	1
	比率(%)	34.8	3.3	4.7	0.6	18.5	30.4	4.4	3.0	0.3	
20 年度	総件数	343	122	10	15	5	61	103	18	7	2
	比率(%)	35.6	2.9	4.4	1.5	17.8	30.0	5.2	2.0	0.6	
21 年度	総件数	294	148	15	7	3	29	61	17	10	4
	比率(%)	50.3	5.1	2.4	1.0	9.9	20.7	5.8	3.4	1.4	

保健福祉事務所、ファミリーサポートセンター、育て支援センター、ケアマネージャー、病院、学校  
資料：こども相談課

### (2) 教育相談・青少年相談件数(教育センター)

表10 教育センター相談室利用者数

区 分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
相談人数(新規)(人)	317	275	274	304	315	305
月毎の相談人数(人)	611	488	578	703	782	779
延べ相談件数(件)	1,733	1,023	1,502	2,102	2,138	1,775
延べ相談件数のうち訪問件数(件)	32	10	69	153	158	105